アフガニスタン山の学校だより　翼（ばあーる）2021年号　発行：アフガニスタン山の学校支援の会　発行日：2021年12月12日

翼 ばあーる

アフガニスタン山の学校だより　ばあーる　2021年号
通算37号

苦難の先を見据えて

支援継続を決断

9月2日、パンシール州にタリバンが侵入しました。戦闘ののち、中心地は占領されましたが、アフマド・マスードをリーダーとするNRF（国民抵抗戦線）は抵抗を続けています。山の学校があるポーランデ地区にもタリバンが押し寄せ、住民たちは首都カブール、もしくは山の上に避難しました。タリバンは学校のコンピューターを壊し、図書を燃やしましたが、命が第一ですから、人々には安全なところに身を潜めていて欲しいと願っています。

今のところ、学校再開の目処は立っていませんが、私は諦めてはいません。経済と医療の破綻、停電、食糧不足、内部での権力抗争、タリバンの崩壊はすでに始まっていると思うからです。国民抵抗戦線側を制圧できないとわかれば、タリバンは撤退していくはずです。そして、住民が戻れば、会は破壊された家屋や校舎の修理、設備機器の購入資金などへの支援を行います。北のタジキスタンからヘリで乗り込むことも考えています。

メディアのアフガニスタン報道は激減し、日本の関心も薄れていますが、今こそ、会の真価が問われます。いますぐ動けないのは悔しいですが、学校と地域の人々への支援が必要となる時が必ず来ます。その時が来るまで見守りましょう。子どもたちが元気に通学し、自分たちの夢を育むことができる日が来るまで私たちは支援を続けることを決めました。これからも皆様のご支援とご協力をいただければ幸いです。

アフガニスタン
山の学校支援の会代表

長倉洋海

◉アフガニスタン訪問報告◉

新型コロナの流行、そして政変が子どもたちを襲った

2021年6月22日～7月3日

アフガニスタン山の学校支援の会代表
長倉洋海

6月22日（火）

夜10時半、成田空港からドバイ行きエミレーツ機で出発。コロナのため乗客は少なく、4人がけの座席を独占して、ゆったり眠った。ドバイ空港には思ったより大勢の旅客がいて驚いた。8時間の時間の待ち時間を経てカブール行きに乗り込み、さらに4時間の飛行。

6月23日（水）

カブール空港で安井さんと合流、彼女の家に荷を降ろす。その足でアフマドがいるマスード財団政治部事務所に。中庭ではアフマドが100人以上の人に囲まれていた。中にサーレ・レギスタニやハジ・ルスタンなど懐かしい戦士の顔。各地でタリバンの攻勢が始まっていて、どの表情にも緊迫感が。この日、ガニ大統領とDr.アブドラがバイデン大統領との会談のため米国へ向かった。パシュトゥーン人だけでなくタジクやハザラなどの声を聞こうとアブドラも呼ばれたのだ。2人で協力して当たれという米国のメッセージなのだろう。

6月24日（木）

安井さん宅に、山の学校の校長ヤシンがやってきた。コロナにかかったが、治ったばかりとのこと。下のバザラックはもちろん、上流のポーランデでも流行して事務長のシャー・ミルザもかかって自宅待機中らしい。生徒では9年生2人がかかって新設のクリニックで点滴を受けたという。感染の広がりのため全国一斉に休校となって、ポーランデでも二日前から休校になったと聞いて、子どもたちに会えないのかと落胆。が、「コース（補習）はやっているので、会えるはず」と聞いて少し安心した。

6月25日［金］

朝、会で製作した「故郷に戻った鹿」（無駄な殺生を嫌ったマスードのエピソードを元に描かれた絵本）を持って安井さんとパンシールに向かう。「途中のシャモリー（平原）は危険」と聞かされていたが、無事に通り抜けた。ただ、タジキスタンからカブールに電力を届ける送電塔がいくつも爆破されているのを見た。以前は軍用車を狙っていた路肩爆弾も今は一般車を狙っていると安井さん。彼女は爆弾を遠隔操作させる電波を撹乱させるためのジャマールという米軍のハンディ装置を持参していた。

12時、山の学校の新校舎に着く。2階部分に増設された図書館が見えた。なかなか立派。通路階段を使って外から入ることができる。中に入って広さに驚く。教室4つ分はゆうにありそうだ。たくさんの本棚が並び、掃除も行き届き、とても気持ちがいい。地域の人々が集まることができるコミュニティセンターの役割も果たしているとヤシン。入って左手の部屋はコンピューター学習室で、10台ほどのPCが置かれている。図書館の建設費は地区の人、豪州のNGO、そして、私たちの会が資金を提供し、2020年に完成した。

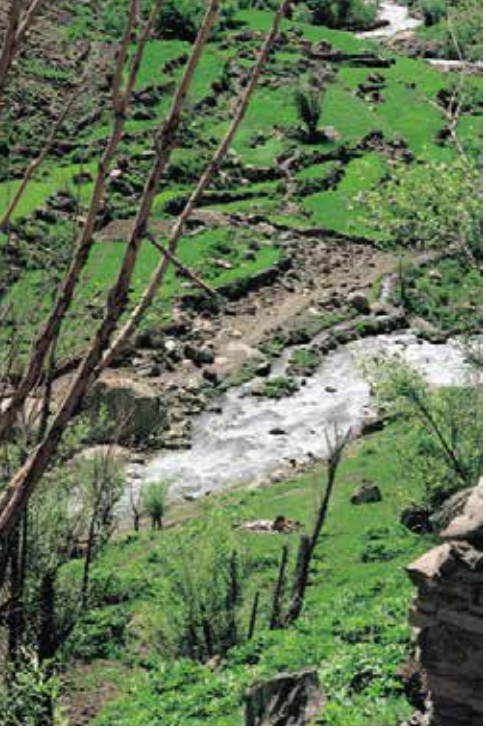
私がやってくると聞いて集まってくれた生徒たち。みんなマスクをつけているが元気そうで一安心。かなりの家庭で感染者が出ているというが、みな家で解熱剤だけで頑張っているらしい。生徒たちにマスード絵本を一人に一冊ずつ渡す。鹿の絵の表紙を見てどんな本なのかどの子もワクワクしている。

6月26日（土）

朝、安井さんがカブールに戻った後、図書館でコースの授業を見学。学校の授業時間を挟んだ早朝と下校後の2回でその内容は英語、PC学習、自己啓発授業の3科目。講師は下のバザラックから派遣されていてきている快活な好青年。当初は、町の学校のレベルから引き離され取り残されないようにと教育支援を始めたが、こんなに恵まれた環境で勉強できるようになるとは思っていなかったので感無量だ。授業の後、一昨年に撮影した子どもたちの写真を配り、成績優秀者には賞品の万年筆などを配った。

午後からは旧校舎を使って開院した地域クリニックを訪問。男性医師と産科の先生が一人ずつ、看護婦もいるという。驚

いたのは、学校の臨時教師をしていたマリナ（24歳）が医療補助員として働いていたこと。赤ん坊の身長や体重を測ったり、患者さんの手助けをするのが仕事。でも、「また、学校の先生をやりたい」とマリナ。



6月27日（日）

コースの授業の撮影のあと、写真絵本『学校が大好き　アクバルくん』の主人公になってくれたアクバルに会いに行く。家から出てきたアクバル。背は思ったほど伸びていないが、少し大人びた感じ。さっそく彼に、本とお土産の万年筆を渡す。嬉しそうにしていたが、服が2年前の写真に写っているものと同じだった。ヤシンは「家が貧しいので栄養が足りていないからあまり大きくなっていない」と話す。アクバルに「学校が休みだけれど、何をしているの」と聞くと、「何にもしていない」と下を向いて寂しそうに答えた。「将来、お医者さんになりたい」というので、「たくさん勉強してなるんだよ」と励ました。

6月28日（月）

1983年、マスードに同行していた時、草原に寝転がり本を読んでいた写真を撮ったが、その場所が、このポーランデだった。当時の撮影場所を探していて村人に写真を見せると、連れて行かれた場所はなんと学校（旧校舎）のすぐそばだった。本を読むマスードの背後に、学校が建てられた（1997年建設）のだと初めてわかった。当時はこのあたりに家もなく、周りも現在のように整備されていなかったから、気づくことがなかった。それにしても、マスードと学校との不思議な縁のようなものを感じて、胸が熱くなった。

6月29日（火）

パンシールにアフマドがやってきたらしい。彼の家を訪れると大勢のイスラム戦士が集まっていた。外国からのテレビチームも二組。戦士との話し合いやテレビ取材の間を縫って、河邑監督が製作中の映画素材用に、アフマドにインタビュー。話を聞いた庭園にはマスードが20年前に植えた木々が大きく枝を張り巡らし、たくさんの葉をつけていた。その頃、まだ12歳だったアフマドがいま、地域の人々を率いている

午後から最上流部の集落ガーウィンで、マジャミンやルビナと会った。「家族がコロナなので」と言うので家に上がらず、川のそばで話を聞いた。2人ともいま大学受験の結果を待っているところだという。いつも成績がクラスで一番だったルビナは「地域を救う医者になりたい」と話し、マジャミンは「この国の女性の立場を向上できるような法律家になりたい」と言う。2人が試験に受かり、夢が叶うようにと願う。

6月30日（水）

私がカブールに戻る日。アクバルが山道を駆けて、会いに来てくれた。ランニングシャツ一枚だ。学校に子どもたちも集まってきて、みんな手を振って、別れを惜しんでくれる。

7月1日（木）

カブールのシティ・ホスピタルでコロナの検査をして、翌日、陰性結果が出て、ドバイ行きの飛行機に乗り込む。成田到着は3日夜。そのまま空港近くの東横インで隔離生活に入る。10日間、廊下にも出られない刑務所のような監禁生活の後、7月13日、日野の家に帰宅することができた。

活動継続に向けてのお願い

会の新たな方針が決まりました！

昨年末の会報で、2023年3月末日で会の活動を終了することと終了に向けた活動計画をお知らせしましたが、状況の激変により、その計画の変更をすることにしました。

タリバンの権力掌握によってもたらされた国難が続く中、私たち山の学校支援の会は山の学校が本来の形を取り戻す日まで活動を続けることを決めました。地域の人々と学校の子どもたちが破壊の中から立ち上がり、未来に向かって進んでいくのを支援したいと思ったからです。

現時点では支援を届ける術がないため、いつ支援活動を再開できるのか目処は立っていませんが、その日は必ず来ます。それを信じ、これまでどおりご支援いただければ大変、うれしく思います。ただ、食料などの緊急支援ができる他のNGOなどのご支援を優先させたいと考える方はそうしてください。それも困窮するアフガニスタンの人々の大切な支えになるはずです。私たちの会もそうした援助をしたらどうかという考えもあるかとは思いますが、会としては資金は山の学校への支援が必要となった時に使えるようセーブしておきたいと思っています。

山の学校を支援する会は私とマスード、そしてポーランデ地区との関わりの中から生まれた非営利の団体です。皆様からいただいた資金はその地域と学校のために使うことを最優先にしたいと考えます。パンシール、そして山の学校が復活する日まで皆様とともに見守り、再建に向かう人々に声援を送ろうと思います。

この趣旨をご理解いただき、ご支援を継続していただけることを心より願っております。

アフガニスタン山の学校支援の会代表　**長倉洋海**

ムルサルさんのカブール通信

８月15日、アフガニスタンの首都カブールがイスラム主義組織タリバンに陥落した。予想外のタリバンのカブール入城に国際社会も市民も言葉がなかった。パンシール以外のすべての州を掌握したタリバン。この時点では、執拗に攻撃を繰り返すタリバンに対し、34州からパンシールに集まった精鋭部隊は戦いを優勢にすすめていた。私は、陥落後の８月26日に日本の自衛隊機で退避することとなった。日本大使館など日本の組織で働いていた職員とその家族約500人とともに集合場所でバスに座り空港へ向かうのを待っていた。17時半の出発時間になっても遅れている人がいたためにその到着を待っていたところ、空港近くで爆発が起こり空港閉鎖となった。数日前からイスラム国の攻撃の脅威情報が出ていた中での退避は、キャンセルに。定時に出発できなかったことで爆発に遭遇することはなかったのが不幸中の幸いだ。次の日、邦人待避を優先ということでカタール政府が手配したバスで12人の外国人報道関係者らとともに空港へ向かい、私は自衛隊機で隣国パキスタンのイスラマバードに退避した。その後、カブールでは、まず、パンシールへのパキスタン軍事介入、そして女性の権利を求める大規模デモが起こり、叩かれても銃口向けられても屈しないウーマンパワーにタリバンも困惑。しかし最後にはタリバンの強硬手段でデモが禁止されてしまった。現在もパンシールでは散発的に戦闘が続いており、ほとんどの住民がカブールなどに避難している。パンシール峡谷の６割をアフマド・マスード率いる国民抵抗戦線が、残り４割の幹線道路を含んだエリアをタリバンが握っているという。都市部では、男子生徒のみ就学が許可されたが中学生以上の女生徒は、未だに学校へ行けない。パンシールでは、一般市民への虐殺や行方不明者も出ており、まだまだ平常を取り戻すには時間がかかる。本当に悲しい。

2021年11月6日　イスラマバード　**安井浩美**

事務局より

◎来年３月までの教職員給与は支払い済みです（お預けしていた安井浩美さんがカブール脱出の直前に10月以降の給与支払いを済ませてくださいました）。以降の支援については現在再開の目処がたっていませんが、例年通り受け付け、支援再開の際に使わせていただきますのでよろしくお願いいたします。

◎不要切手や書き損じはがきのご提供をありがとうございました。今回の発送にも早速使わせていただきました。今後ともご協力をお願いいたします。

◎住所変更場合は、お手数ですがメールやハガキなどで事務局までご一報ください。

現地報告会が無事に終了

11月27日(土)吉祥寺の武蔵野公会堂で会員90名を含む139名もの方のご参加を得て現地報告会が開催されました。第１部は長倉代表の今後の会の方針説明、そして今年の現地訪問のスライドトークと続きました。第２部はツイッター上の写真をもとに状況説明があり、後半にはカブールから安井浩美さんがオンラインで登場。皆さん、安井さんと代表とのやり取りを一言も漏らすまいとじっと耳を傾けておられました。

休憩時間に河邑厚徳監督が現在制作中の映画から今回のために編集してくださった特別版（14分）の上映、そのあとで監督にも登壇していただきました。休憩時間中に書籍とカレンダー、安井さんが主催される工房のクラフト製品、全てが売り切れるという嬉しいニュースもありました。アンケートには「これからも変わらぬ支援を続ける」という多くの声をいただき、スタッフ一同、大いに励まされました。報告は第１部のみですがオンラインで配信予定です。詳しくはホームページやSNSでお知らせします。

カレンダー2022

販売 **完売しました**

毎年恒例となった長倉代表撮影の写真カレンダー（壁掛用）が好評販売中です。

【価格】2,200円［送料込み］

【振込先】ページ下部に記載の口座までお振り込みください。

※なお、他行から振り込まれる場合は住所が通知されませんので、メールで送付先を事務局までお知らせください。

おかげ様で完売しました。また来年もよろしくお願い致します。

アフガニスタン山の学校支援の会

アフガニスタン山の学校だより　**ばあーる**　**2021年号・通算37号**

発行日：2021年12月12日　発行：アフガニスタン山の学校支援の会

〒187-0032　東京都小平市小川町1-1071-15 比留川 気付

【振込先】ゆうちょ銀行 振替口座　加入者名：アフガニスタン山の学校支援の会
口座番号：00160-1-667404

電話：070-3281-1180　E-mail ▶ info_ yamanogakko@yahoo.co.jp

http://www.h-nagakura.net/yamanogakko

編集・発行人＝長倉洋海　題字・イラスト＝近藤理恵　**デザイン**＝鈴木康彦

編集実務＝森 桂子　**印刷**＝藤田印刷株式会社

アフガニスタン山の学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会ったパンシール渓谷ポーランデ地区の子どもたちの教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年4月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたって活動を続けてきました。その後2017年3月まで活動を延長。4月より第2期支援活動をスタートしました。